

令和5年度三田市高校生議会 質問・答弁内容

議員名 (高校)	質問テーマ・内容	答弁内容
<p>② 太田 優花(有馬高等学校)</p>	<p>(再質問)            まず「相談によりいじめを認知し」とありましたが、どのようなものをいじめと認知しているのか教えてください。また、メタバース空間は自分の情報を公開せずに楽に話せるという部分でとても良いツールだと思いました。リモート座談会は私たち高校生にとって責任が重すぎるとの意見をいただいたので、私たちもメタバース空間を利用して相談に乗ることへの可能性も模索したいと思いました。しかし、ネット依存が問題となっているように、メタバース空間から抜け出せなくなって、逆に学校に行けなくなってしまう人も増える可能性があると思うのですがどのようにお考えですか。</p>	<p>(再答弁)            私から再質問の、「相談によりどのようなものをいじめとして認知したのかについて」と、「メタバース空間から抜け出せなくなって、逆に学校に行けなくなってしまう人も増える可能性があるのではないかについて」についてお答えします。            「ひょうご SNS 悩み相談」は、兵庫県が開設している SNS による相談窓口で、LINE や WEB を活用して、子ども達が悩みを相談できるようになっています。「SNS 相談」の開設時間は 17 時から 21 時で、実際に LINE 等のトーク機能を用いてチャット形式で相談できるようになっています。相談者や内容は、緊急時をのぞいて、原則学校には伝えません。学校に伝えてほしいことがある場合、24 時間受付の「学校への連絡窓口」があり、自分自身や友だちのことで今悩んでいることを直接書き込むと、後日、その情報を学校へ伝えてもらうこともできるようになっています。            情報を聞いた学校はアンケートを実施したり、教育相談を行ったりして、子ども達からの悩みや困りごとを直接聞き出す機会をつくり、具体的な事案の把握に努めるようにして参ります。            そして、学校は把握した事案の内容が“いじめ防止対策推進法”の第 2 条において定義されている「当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」に該当する場合には、積極的にいじめとして認知し、解決に向けて取り組みを始めるようにしております。</p>

議員お尋ねの「相談によりどのようなものをいじめとして認知したのか」という点でございますが、その「学校への連絡窓口」を活用しながら進めております。

相談内容が学校に伝わることにより、調査が行われ、いじめとしての認知をするともに聞き取りと指導を行い、その結果、解決に至ることができております。

内容の詳細については申し上げることは出来ませんが、いじめの態様(状況)としましては「嫌な事を言われる」というものであります。

次に、「メタバース空間から抜け出せなくなって、逆に学校に行けなくなってしまう人も増える可能性」についてでございますが、メタバースは現実世界と仮想世界が混在し、連携する全く新しい概念です。

メタバースを活用した支援としましては、今現在、学校や関係機関の支援を受けることが出来ていない子ども達への支援を念頭に研究をすすめております。メタバース空間で学習したり、他者とコミュニケーションしたり画面の中で予行することにより、実際の場所で人と話したり、対面で学習したりする際の抵抗感や不安感を和らげるトレーニングの段階を経て、その後、三田市の教育支援センターである「三田市あすなる教室」等のリアルな場所や人との関係へと、支援が切れ目なく、その人その人にあわせて提供できるよう研究しております。

メタバースの活用につきましては、専門家と連携し、適切な支援になっているかどうか、定期的な確認を行うとともに、SC(スクール カウンセラー)や SSW(スクール ソーシャル ワーカー)とも子ども達の活用状況を確認し、議員ご指摘の「メタバース空間から抜け出せなくなる」といった状態が発生しないよう注意しながら、今後も研究を続

令和5年度三田市高校生議会 質問・答弁内容

		<p>けてまいりますので、議員のご理解賜りますよう、お願いいたします。</p>
--	--	---